

市の教職員がヤングケアラーについて学んだ研修会



病気や障害の家族世話

「ケアラー」早期把握を

総社市が小中教職員研修

病気や障害のある家族らの世話を担う「ケアラー」を支援する県内初の条例を制定した総社市は28日、市内の小中学校の教職員を対象にした研修会を市役所で開いた。

保健福祉学部の近藤理恵学部長が、家族の世話を追われ学業に支障をきたしたり、子どもらしい生活が送れなくなったりする「ヤングケアラー」の問題について解説した。

近藤学部長は「忘れ物をする、宿題を忘れるといった行動の背景に、家族の世話をしているという現実がある可能性もある」と指摘し、学校や行政が早期に実態を把握し、情報を共有して支援につなげる重要性を強調。その上で、海外ではヤングケアラー同士の語り合いの場や博物館見学、自然体験といった余暇活動を提供する支援が行われていること

を紹介した。久山延司教育長は「ヤングケアラーは該当する家庭だけでなく、社会全体の課題だ」とあいさつ。「(世話をさせる)保護者側に困り感がないケースがあり表面化しにくい」などと現場の養護教諭による実体験に基づいた報告もあった。

(久万真毅)